

授業科目 評価学演習Ⅱ

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	理学
星 孝、地神 裕史 他		開講時期	後期	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	60（中枢神経系：20）
【概要・一般目標：G10】 中枢神経疾患の全体像をよりの確にとらえるために必要な検査・評価方法を修得する。また、これらの評価によって得られた結果を正しく記載する能力を修得する。					
【学習目標・行動目標：SBO】 1. グループワークにおいて積極的に取り組める 2. 評価結果を正しく記載することができる 3. 評価を行うためのオリエンテーションが適切に行える 4. 片麻痺運動機能検査の意義を理解し、正しく実施できる 5. 協調性検査の意義を理解し、正しく実施できる 6. 筋トーンス検査の意義を理解し、正しく実施できる 7. バランス検査の意義を理解し、正しく実施できる 8. 感覚検査の意義を理解し、正しく実施できる 9. 反射検査の意義を理解し、正しく実施できる 10. 脳神経検査の意義を理解し、正しく実施できる 11. 高次脳機能検査の意義を理解し、正しく実施できる 12. 姿勢評価の意義について理解し、正しく実施できる 13. 動作分析（基本動作）の意義について理解し、正しく実施できる 14. 動作分析（応用動作・歩行）の意義について理解し、正しく実施できる					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	片麻痺運動機能検査			1～4	演習 担当：星、地神
2	協調性検査			1～3, 5	演習 担当：星、地神
3	筋トーンス検査			1～3, 6	演習 担当：星、地神
4	バランス検査			1～3, 7	演習 担当：星、地神
5	感覚検査、反射検査			1～3, 8, 9	演習 担当：星、地神
6	脳神経検査、高次脳機能検査			1～3, 10, 11	演習 担当：星、地神
7	姿勢評価、動作分析（基本動作）			1～3, 12, 13	演習 担当：星、地神
8	動作分析（応用動作・歩行）			1～3, 14	演習 担当：星、地神
9	中枢神経疾患におけるPBL（評価結果の統合）			1～14	演習、グループ討議
10	中枢神経疾患におけるPBL（評価結果の統合）			1～14	演習、グループ討議
【使用図書】		<書名>		<著者名>	<発行所> <発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		後日指定			
参考書		理学療法評価学 第2版	松澤正	金原出版	2004・6,510円
		ベッドサイド神経の診かた第16版	田崎義昭 他	南山堂	2004・7,560円
		診察と手技がみえるvol.1 第2版	古谷伸之 編 他	メディックメディア	2007・6,300円
その他の資料		必要に応じて配布			
【評価方法】 出席、実技試験、定期試験（筆記）			【履修上の留意点】		